



公立中高一貫校  
レポート #08

# さいたま市立 浦和中学校・高等学校

[埼玉県さいたま市]

## 合併で生まれた市が教育で一枚岩に。すべての公立中の手本になるべく、今、実りの時を迎える



市浦高といえば、サッカー。歴戦の勝利の証

2007年4月、さいたま市初の中高一貫校として誕生した市立浦和中学。03年に政令指定都市となった、さいたま市が総力を結集し、文武両道で知られた母体の高校に併設した。中高の緊密な連携を図り、ICTをはじめとする先進教育を積極導入。着実な成果を上げている…

取材・文/鈴木隆祐 写真/松沢雅彦  
デザイン/タケウチフミヒロ (landfish)

さいたま市立浦和中学の第1学年では、週に3日、月曜は朝のHRの時間も使い、1時限目と合わせて60分、生徒1人につき1台貸与されたノートPCを用いての、「Morning skill Up Unit」(通称MSU)と呼ばれる授業を実施している。あら

かじめインストールされたアプリケーションにより、国数英の反復学習を行うのである。

PCを活用し、繰り返し学習ができるMSUは、ICT(情報通信技術)の利用法としては実に有効的な授業スタイルだろう。生徒は基本自学自習で、各々のペースで取り組むが、いちおう時間配分があり、20分ごとランダムに国数英の主要3教科をこなしていく。そして、各20分の使い方は生徒の自主性に委ねられている。

その都度、担当教諭が各教室を回るが、生徒が黙々と課題に向かうのをただ眺める—といった様子。ただし、PC画面を覗き込み、明らかな間違

### 基本データ

#### 沿革

1950年：浦和市立高等学校(1943年4月開校)と浦和市立女子高等学校(1940年4月開校)が統合され、浦和市立高等学校となる。県立浦和高校と区別して「市立浦和」、単に「市立」と呼ばれる。  
2001年：市の合併に伴い、さいたま市立浦和高等学校に。  
2007年：さいたま市立浦和中学校開校。

校長 吉野浩一

所在地 埼玉県さいたま市浦和区元町1-28-17

交通 JR京浜東北線北浦和駅より徒歩12分

出身著名人 清水秀彦、野島伸司、町亞聖、蓮見孝之、大野拓朗…etc.

いを見つけた場合、ヒントを与えるなどの最低限のやり取りは見受けられた。実際の授業を受ける事前準備として、一定のスキルをひたすら鍛錬する、いわば“自主トレ”に近いのだ。

国語は漢字の読み書きや部首名当てといった、漢検問題集を解きつつ、硬筆習字も同時にこなす。さいたま市の小中学校ではGlobal Study = G・Sと呼ぶ、英語ならヘッドフォンマイクをつけてのヒアリングとスピーキング、また文法等の問題集をさばく。数学もタッチペンで扱える問題集をどんどん解いていく。当然、回答までの時間設定があり、時間内に解けなければ不正解となり、正解がすぐに出てくる。

しかし、こうした教材はどんどん洗練されてい

ICTを駆使した、**圧巻の自習法「MSU」で勉強癖をつける**

### 2019年度 中学志願状況

男女併せて一次の倍率が8.44倍で。昨年度の6.16倍に比べ、1.5倍近くも上がった。受検者を全体で1/5までに絞り込む。そこからは男女総計の倍率も1.76倍なので、いかに一次対策をしっかりするかにかか

	定員数	受験者数	倍率
男	40	308	7.7
女	40	388	9.7

※受験倍率(通算) = 一次検査受検者数 ÷ 二次検査合格者数

るようで、英語でも、マイクで拾った音声は波形グラフで表示され、正しい発音と自分のイントネーションとの違いが視覚的にわかるのだとか。また、動画で項目ごとの授業を見ている生徒もいた。

特に漢字ドリルは自分でもダウンロードしてトライしたくなるくらい、傍目からもゲーム感覚で楽しげ。ひたすらやり込みたくはしないか、少し心配にも思える。しかし、あくまでMSUはその授業内にこなす課題であり、生徒はそこで勉強癖をつけていく。

### 全国的なICT先進校として注目も

そもそも市浦中では、2007年の開校時にPC240台を導入。無線LANも設置し、校内各所でネット接続できるようにするなど、ICT環境の整備では先駆的な学校だった。また、教職員の

始業から1時間を丸々自習に費やすMSU。PCに入ったソフトを用い、めいめいが思いのまま、主要3教科の学習をする



さいたま市立浦和中学校・高等学校

ICTスキル向上のため、教員間で指導方法改善のための研鑽の機会がつねに持たれ、公開されてもきた。

これまでに私も数々の学校で、このような自習の時間に接してきたが、MSUは「未来の学び」そのものに見えた。仮にMSUがさいたま市の公立中すべてで採用されたら、かなりの「全体の底上げ」になるのではないかとも思えた。もっとも、MSUに黙々と取り組み、次第にスキルアップできるという資質を、適性検査をパスしてきた市浦中の生徒は持ち合わせているのだろう。だから、市立浦和高校では学習進度の違いから、高入生とは別クラス編成（体育、芸術のみ2クラス合同）となるのも、現段階では致し方ないのかもしれない。

なお、同校の生徒用ノート型PCは、ディスプレイ部分を外すとタブレットとして使用することも可能。ノートPCでキーボード入力し、プレゼンテーション時などはタブレットでペン入力ができるなど、用途に合わせて駆使できる。これは家

中3英語ではテーマを選択し、ディスカッションの上でグループの意見をまとめる



庭でもなかなか経験できないことだろう。いくらタブレット学習が流行りつつあっても、通常は親が所有するデスクトップかノートPCのどちらかを、時間の制約の中で使うのが中学生の現実だろうから。

1時限目のつけから、市浦中の先進性を目の当



中2と中3の数学では、論じ合いに力点を置いていた。ことに高校へつなぐ学習「探数」は新しい試みだ。最新機器を用いての、高2物理のコンデンサーの実験も、楽しみに相当高度な内容に取り組んでいた

さいたま独自の英語“G・S”とは？

G・Sについてはもう少し説明が必要かもしれない。さいたま市教育委員会では2016年より、すべての市立小中学校でこの授業を実施している。小学1年から中学3年生までの9年間、一貫したカリキュラムの下で「聞く」「話す」「読む」「書く」、4つの技能をバランスよく学ぶことで、将来的に「グローバル社会で主体的に行動し、たくましく生きる児童生徒を育成」するのを目的とする。国が来年度には小学校からの英語教育を全面实施する予定だが、さいたま市としてはそれに先駆け、「質、量ともに上回る英語教育を実施」しようと取り組んできた。

すなわち、今の中3生以下はすでにこのG・S体制で、教科書に代わる市独自のテキストを使用し、ある程度英語を学んで来ているのだ。取材時は5月後半だったが、中1生は入学してまだ2ヶ月にならないというのに、道理で堂々と英会話もこなしているわけだ。

寺内啓容中学副校長も、同校の「市の先進校としての役割」を強調する。100万都市のさいたまには、全部で58校の公立中学があるのだ。「市立高としては本高校の他、浦和南、大宮北、

ただ問題を解くだけではない、討議する数学

たりにしたが、それ以外の授業もICTとアクティブラーニング（AL）のメソッドを無理なく導入し、どの教科でも感心させられた。単にプロジェクターやe-ラーニング教材を使うというレベルに止まっていないのだ。基本教材があるにしても、味付けは各教諭が自在に施している。

中1の英語には国民的なアニメのキャラクターが登場し、さいたま市のPRキャラクター、つなが竜ヌウも客演。一見テレビ的にも見えたが、むしろ優れたネットメディアの構成に近い。現代の中学生にとってテレビ放送はすでにオワコン、とまでは言えないが、家族団欒や趣味的に視聴するメディア。むしろYouTuberに共感する世代だから、投げ込み教材にも各自工夫がなされているのだ。

時間割表を見ると、中1では「G/数」「数/G」とあるのだが、G・S担当の久保智紀教諭によれば、「出席番号順にクラスを半分に分け、前半と後半で数学とG・Sを受ける」のだという。それもまた、現代の中学生の集中力の持続を念頭にいった、新しい授業のスタイルといえよう。



さいたま市立浦和中学校・高等学校

本年度から大宮国際中等教育学校となった大宮西の4校がありました。そもそも市浦高は倍率も高く、中では進学校として人気があったんです。文武両道を地で行き、主体的な子どもたちが作っていく学校だった。そのよさは引き継いでいると思っています」

もっとも、さいたま市は2001年の平成大合併で生まれ、03年4月に政令指定都市となった。浦和と大宮という、県庁所在地と大商業地が主導権争いをし、それもなかなか捗らなかつたというのは誰もが記憶している。本来なら昭和のうちに合併が成立してもおかしくなかつたのだ。01年の段階では浦和・大宮・与野の3市だったが、その後、05年に岩槻市を編入している。つまりは4市の寄り合い所帯であり、それぞれに教委もあった。どうコンセンサスを取ってきたのか、今さらながら気にもなるが、寺内副校長はその大同団結で、「教師たちも一気に動いた」と分析する。「全市的にどう教育を改革していくか、むしろ見えやすくなったのではないかと思います。それがGS導入にも結実している。(併設中の)1学年80人選抜という数もバランスが取れている。知的探究心はそもそも持ち合わせている子たちを、もっともっと高めさせる。『あ、できた』という喜びを味わわせる場が我が校だと捉えています。MSUも、熱しやすく冷めやすい今の子どもたちに、基礎労力の重要性を理解させたい」という



放課後のレシテーションコンテストの様。OBOGの教育実習生が張り切って手伝っていた

ところから始まっています。毎日やっていた時期もありましたが、試行錯誤の結果、今のペースに落ち着きました」

市浦高といえばサッカーの強豪。全国高校サッカー選手権でも、過去に4回も優勝している。また、1988年には野球部も夏の甲子園に出場し、準決勝で優勝校の広島商に敗れるまで、破竹の連勝をしたのも鮮烈に覚えているため、スポーツの伝統校という印象が強かった。が、市の意向を一身に受け、ここまで新しい教育のモデル校としての役割を果たしていたとは、やはり百聞は一見に如かずである。

授業から感じる確かな熱意

寺内副校長には「先生の授業の熱も見てほしい」と言われた。「生徒とのエネルギーとエネルギーのぶつかり合いは見ものだろう」とも。それこそ願ったり叶ったりだ。PCやタブレットから

飛び出す、学びの熱気を私も確認したい。

中3-Bの「G S / 数」ではクラスの半分は数学を、残りは高校の教諭の英語の授業を受ける。英語はワークブックとプリントを併用しつつ、文法のポイントをつかませ、あらかじめ4つのテーマから選ん

中2保体では、バレーボールネットの片づけ方をまず懇切丁寧に見せる。すると、組み立て方が自ずとわかるようになるのは、実に合理的と感じた



図書室は中高ともにある。中学はコンパクトで使い勝手がよく、高校は厳かな雰囲気。写真は高校の様子

で英作文をさせた上での会話と、けっこう濃密な内容。テーマとは「通学は制服と私服のどちらがいいか」などで、生徒は何組かに分かれてディスカッションをし、最後にはグループとして意見をまとめる。

高校の根岸正明教諭が生徒に呼びかけるように、確かにそれは「高校生になると、ディベートでよく出るテーマ」だ。こうした先取りなら大歓迎。制服がよいと選んだ生徒は、例えばこういう意見を述べる。

「Because, It doesn't take long time to chose clothes. (服を選ぶのに時間がかからないからいい)」

授業後に手応えを訊くと、同校で教えて3年目という根岸教諭は、「前任校の公立一貫校より指導レベルを上げているが、しっかりついてきますね」と満足げだ。また、生徒にもPCの活用について尋ねると、あらゆる局面で上手に使っている様子。「3年でも週1~2回は朝学習で英語の先取りはするので、それでも使っていますし、総合学習で(3年生全員が海外フィールドワークに行く)オーストラリアについて調べたりもします。国語や理科のレポートも作成し、データで先生に送ってますね」

まるでキャリアウーマンのような口ぶりだが、G・Sという地均しとMSUという鍛錬が確かに実を結んでいる。

中2-Bの「G・S/数」の数学のほうを覗くと、「探数」と銘打って、また面白い試みをしていた。まず生徒には、数学が「やや苦手・超得意・得意・

内進生優位から、その存在を起爆材に変える行事

大学合格実績

国公立大学名	2019	2018	2017
東京大学	4	1	3
京都大学		2	1
東京工業大学	2	2	1
一橋大学		1	2
東京外国語大学	2	2	1
東京医科歯科大学		2	
お茶の水女子大学		1	2
千葉大学	1	2	4
横浜国立大学	1	3	2
筑波大学	8	1	3
埼玉大学	2	6	2
東北大学	3	2	1

私立大学名	2019	2018	2017
慶應義塾大学	9	8	12
早稲田大学	23	18	4
上智大学	8	9	10
国際基督教大学	1	1	
東京理科大学	24	18	15
明治大学	19	20	17
青山学院大学	2	1	6
立教大学	18	15	11
中央大学	28	10	21
法政大学	8	7	12
学習院大学	4	2	5
津田塾大学	4	4	5
日本女子大学	9	4	5

苦手・ぼちぼち」と枠内に記されたプリントを渡す。そこに枠内を移動するルールも併記しており、その通りに答えていくと、誰もが「超得意」となるという寸法だ。「これも立派な数学なんです」とは中島尚人教諭。

「探数」はまだ去年から始めたばかり。これからどうやっていこうか、まだ議論を重ねている段階ですが、授業を通じいろいろ気づきを与え、誰でも好きにさせたいですね。ピクの定理やメビウスの輪などもここで考えました。答えだけを導くのではない世界を見せ、より数学に興味を持ってもらいたい。数学も一人で学ぶことも大切ですが、話し合い活動を行うことでより多くのことを学び、身につけることができます」

中学で躓きがちな数学も、話し合い活動で興味を持って好きになる—というのは、いかにもAL的だ。生まれる時代を間違ったとつくづく思われる。

内進生の存在が刺激となる好循環

高校になると、クラス名がアルファベットから数字に変わる。高2物理では、「コンデンサーの性質」について、計測した記録を方眼紙でグラフ化しながら学んでいた。コンデンサーは直流電流を通さないが、交流電流は流れる。この現象を理解する第一歩として、コンデンサーへの充電の性質を調べるのだが、私が見張ったのは、高価な器具が全グループに行き渡り、サクサクと実験を進める様子だ。

市浦では中学併設が決まった時点で、その新校舎を高校生も利用できるよう、広めの特別教室を多く設営した。美術室も音楽室も2つある。音楽の授業では2台ずつピアノが置かれた2つの教室に分かれ、4部混成合唱の練習もつつがなく行っていた。中学と高校校舎の間を取り持つように、屋上庭園も眺えてあり、高校のサイエンスクラブがその管理を任されている。

2014年度の7名をはじめ、毎年2、3名の東大合格者を出してきた市浦高。2018年度は4名の東大合格者を出した。

その他合格実績としては、北大4名、東工大3名、横浜国大6名、筑波大に至っては、18名が合格。そこにも中学併設の確かな影響が見受けられる。

### 高校の部活が中学受検の動機にも

また、市浦高は先述のようにまずはサッカーで知られるが、どの部活もそれなりの成果を上げているのは、埼玉県下の公立校でも珍しい。今では吹奏楽部の活躍でも有名で、2014年度から全日本吹奏楽コンクール西関東支部大会に5回連続出場し、うち2回金賞を獲得。また、全日本高等学校吹奏楽in横浜に3回出場し、審査員長賞も獲得している。

インターアクト部 (IAC) も17年度全国高校生英語



寺内副校長はもともと美術教員。武蔵野美大で油絵を学んだだけであり、環境の教育的効果には関心が高い様子だった

ディベート大会で3度目の全国優勝を初めて達成するなど、近年大活躍している。IACとは日本では、地元ロータリークラブの後援を得ての、高校の福祉・ボランティア系のクラブ活動を指すが、同校では次第にディベートに力を入れるようになり、国内のみならず、韓国北東アジア選手権やNSDA全米大会出場などの実績も持つ。

取材日の放課後には、中高合同の校内レシター

中学校舎はもう一つ教室が入りそうなほど廊下が広く、なんとそこで給食の配膳をしていた



ション(英語暗唱)コンテストも行われていたが、中学のG・Sのみならず、高校でのこうした活動により、全般に英語熱が高い学校という印象は強い。こればかりは学年が上がるごとに、流暢になっていた。

しかし、同校ぐらい、放課後の部活の練習の様子を見て、気持ちが高ぶる学校もない。グラウンド狭しと駆け回るサッカー部は高校だけでも男子121名、女子30名、マネージャー6名の大所帯だ。それに負けず劣らず、吹奏楽部も巨大で、高校のみで総勢157名もいる。

市浦高の部活は中学生にも憧れの的。サッカーはとりわけ有名だが、吹奏楽も近年は好成績を上げており、本文中の高1女生徒も部活動をしたくて、中学から受検した。空手に弓道…ないものはない充実ぶり

もちろん、パートごとに各教室に分かれて練習をするのだが、他校に較べても整然と執り行われている。トランペット担当の高1の女子生徒は同校の定期演奏会を小学校で聴いて、「ぜひここでやりたい」と中学を受けたという。

「近くで見ると、よけいに憧れが募りました。中学校3年間で一緒に活動し、晴れて高校生の仲間入りができたという感じです」

内進生であるこの女子生徒は今年2月、地元和光楽器主催のコンテストの中学部門で銀賞を受賞しているの、相当の実力の持ち主と見える。また「平成30年度税に関する作文」において、さいたま市長賞も受賞している。そのタイトルも『未来への投資』。日々の学習と放課後の活動という両輪を精いっぱい回している、このような生徒が他にもまだまだたくさんいる。そんな学校が市浦なのだ。

文武両道をまっしぐら。部活の充実ぶりは全国でも有数

### 適性検査の傾向と対策

適性検査I・IIの第1次、IIIと面接の第2次選抜に分かれる。

適性検査Iは文章・資料を基に、課題整理、論理的思考による問題解決力、その表現力を見る。と同時に、日頃から身近な問題に興味を持ち、自分の経験や知識で分析し、自ら解決しようとする意欲も見。また社会的事象などを素材とした統計資料から情報を読み取り、適切に判断できるかも見る。

IIでは数理的な事象の分析力、論理的思考力、身近な自然事象などを素材として科学的に理解し、系統的合理的に説明する力、数量や図形の意味を的確に捉え、多面的にものを見たり考えたりする力を見る。

IIIでは複数の課題について、それぞれ300字程度でまとめる文章題。課題解決への意欲や合理的な説明力を見る。面接は個人と集団、それぞれ10分程度に分かれ、後者では与えられた課題の解決に向けて話し合うのが肝。